

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

- ① 国語 263人
- ② 数学 261人

5 留意事項

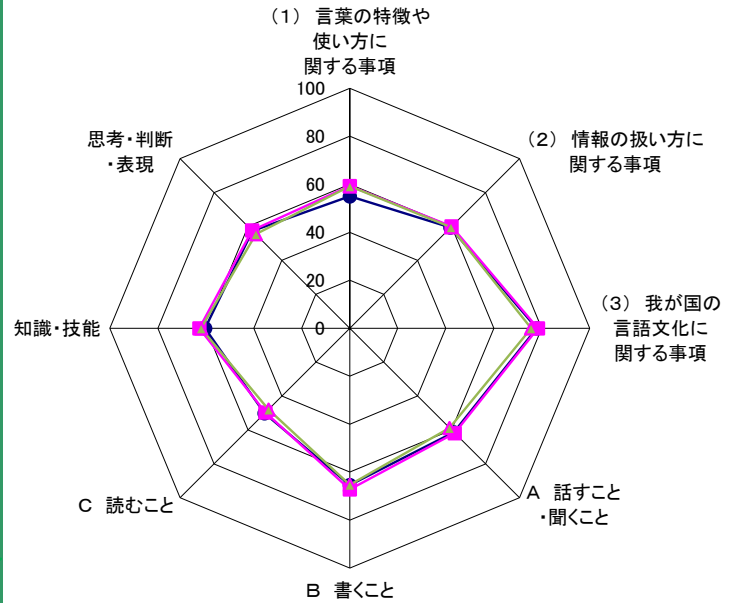
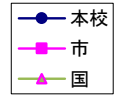
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	55.0	59.3	59.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	59.3	60.0	59.6
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	77.9	78.4	75.6
	A 話すこと・聞くこと	61.3	61.8	58.8
	B 書くこと	65.4	67.2	65.3
	C 読むこと	50.2	49.7	47.9
観点	知識・技能	60.3	62.7	62.0
	思考・判断・表現	57.3	57.6	55.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

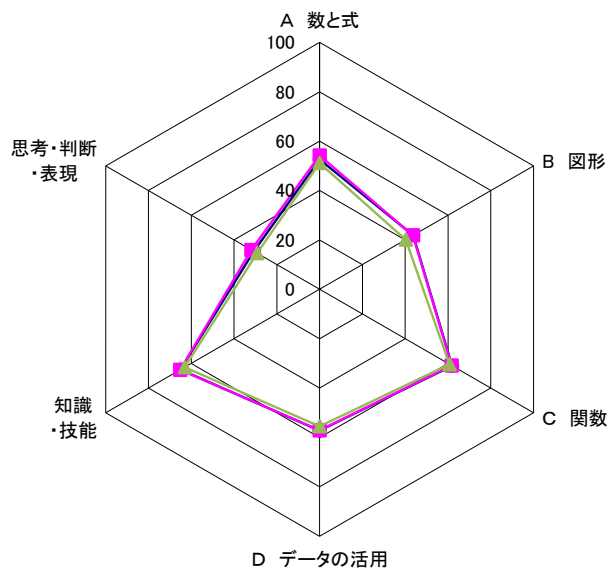
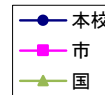
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	本校の平均正答率は、国の平均を4.2ポイント、市の平均を4.3ポイント下回っている。 ●漢字「満ち足りた」を書く問題では、国の平均を3.0ポイント下回っている。 ●短歌に用いられている表現技法の適切な説明を選択する問題では、国の平均を7.4ポイント下回っている。	・漢字の書きについて、「満」のみ書ける割合が国、県を約2ポイント下回っている。書く機会が減少している昨今、学校生活の中で漢字や文章を書く機会を意図的に設定していく。 ・短歌に用いられている表現技法について、「直喩」「倒置」とする誤答の割合が国、県に比べて高い。短歌や俳句、漢詩等における知識を復習し、定着を図っていく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	本校の平均正答率は、国の平均を0.3ポイント、市の平均を0.7ポイント下回っている。 ○本文中の情報同士の関係の適切な説明を選択する問題では、国の平均を1.2ポイント上回っている。 ●話し合いの中の発言についての適切な説明を選択する問題では、国の平均を1.8ポイント下回っている。	・話し合いの中の発言についての適切な説明を選択する問題では、発言から「意見」と意見を支える「理由」を捉えることができていないことが誤答の原因である。しかしながら、選択肢1とする誤答の割合が高く、着目すべき箇所は正しかった生徒が多いことが確認できる。それは「意見」なのか「事実」なのか、「理由」なのか「具体例」なのかを判断できるよう、文脈を理解するなど、読みを深めていく必要がある。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	本校の平均正答率は、国の平均を2.3ポイント上回っているが、市の平均を0.5ポイント下回っている。 ○行書の特徴を踏まえた書き方についての適切な説明を選択する問題では、国の平均を2.3ポイント上回っている。	・行書の特徴を踏まえた書き方についての適切な説明を選択する問題では、8割近くの生徒が理解を示している。日常の中で行書にふれる機会はあまり多くない。書道の授業では、書体の特徴や筆脈を意識させる指導を行っている。漢字の成り立ちや構成、言語文化に対する関心が高まるよう指導を行う。
A 話すこと・聞くこと	本校の平均正答率は、国の平均を2.5ポイント上回っているが、市の平均を0.5ポイント下回っている。 ○指し示している資料の適切な部分を選択する問題では、国の平均を3.7ポイント上回っている。 ○「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く問題では、国の平均を4.0ポイント上回っている。	・フィルターバブル現象について、指し示している資料の理解はできていないが(72.2%)、発言の意図を捉えられていない生徒が36.9%いる。記述式の問題では、国の平均を4.0ポイント上回っているが、正答率は半数に満たない(48.7%)。話し合いにおけるそれぞれの考えと、それについての根拠を適切に捉える力は、発言の意図を捉える問題や自分の考えを書く問題に必要な読解力である。
B 書くこと	本校の平均正答率は、国の平均を0.1ポイント上回っているが、市の平均を1.8ポイント下回っている。 ○物語を書くための材料を取捨選択した適切な説明を選択する問題では、国の平均を0.7ポイント上回っている。 ●物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する問題では、国の平均を0.6ポイント下回っている。	・物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する問題では、「僕」の次の出番への期待を伝える上で、どのような効果があるのかを具体的に書けていない生徒が3割いた。まずは効果を決め、それを表すための表現の工夫を考えるという、解き方の順序を定着させることが必要である。多様な記述式の問題を解き、出題・解き方について、ある程度のパターンに慣れさせることが大切である。
C 読むこと	本校の平均正答率は、国の平均を2.3ポイント、市の平均を0.5ポイント上回っている。 ○本文から着目する内容を決めて要約する問題では、国の平均を1.1ポイント上回っている。 ○短歌に詠まれている情景の時間帯に沿った並べ替え問題では、国の平均を4.2ポイント上回っている。	・「読むこと」についての全ての問題において国、県を上回った。さらに力を伸ばすために、説明的文章において、構造と内容の把握、精査と解釈、考えの形成に関する指導を重ねていく必要がある。また文章への理解が恣意的なものとならないよう、叙述を基に構造を適切に捉えさせる学習の深化を図りたい。

宇都宮市立清原中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	52.6	54.2	51.1
	B 図形	43.7	43.6	40.3
	C 関数	61.9	61.7	60.7
	D データの活用	57.2	57.1	55.5
観点	知識・技能	65.1	65.2	63.1
	思考・判断・表現	30.8	31.9	29.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	『数と式』の領域の本校の正答率は、全国平均は1.5ポイント上回っているが、市平均を1.6ポイント下回っている。 ○連続した2つの偶数を文字を用いて表す問題の正答率が市平均を1.4ポイント上回っている。 ●式を変形する問題の正答率が市平均を6.2ポイント下回っている。	・等式の変形についての基本的な知識は、様々な場面で必要とされる場所でもあるので、授業等で等式の性質について振り返り、繰り返し復習問題に取り組めるような機会を設けていきたい。
B 図形	『図形』の領域の本校の正答率は、全国平均及び市平均ともに上回っている。 ○回転移動についての理解をみる問題及び三角形の合同を基にした証明の問題の正答率が、ほぼ市平均と同等である。また、三角形の合同を基にした証明の問題においては、無解答の割合が全国平均より少ない。	・図形の証明の問題においての無解答の割合をみると、昨年度より苦手意識をもっている生徒が少ないようにみえる。2学年時、三角形の合同の証明についての導入において、授業で証明の流れを分かりやすく捉えやすいように工夫を行った。3学年では、三角形の相似の証明を学ぶので、さらに知識、技能の定着を図れるように、分かる授業を実践していきたい。
C 関数	『関数』の領域の本校の正答率は、全国平均及び市平均ともに上回っている。 ○グラフの傾きや交点から事象について読み取る問題の正答率は、すべて市平均及び全国平均を上回っている。 ●1次関数の式とグラフの関係の理解度をみる問題の正答率が、市平均を2.4ポイント下回っている。	・3学年にて、関数 $y=ax^2$ を学ぶ際、既習事項である比例、1次関数にも触れ、表・式・グラフの関係を復習し、知識の定着を図りたい。また、関数 $y=ax^2$ における応用問題を取り扱う際、1次関数と組み合わせた問題を積極的に取り上げていきたい。
D データの活用	『データの活用』の領域の全本校の正答率は、国平均及び市平均ともに上回っている。 ○データから最頻値を求める問題や複数の集団のデータ分布を比較し読みとる問題の正答率は、市平均及び全国平均を上回っている。 ●確率を求める問題の正答率は、市平均を1.5ポイント及び、全国平均を0.3ポイント下回っている。	・基本的な確率の求め方の定着が図れていないため、生徒にAIDリル等を利用し繰り返し問題に取り組む復習するよう声掛けをして、確かな学力の定着を図ってきたい。

宇都宮市立清原中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的回答の割合は90.6%であった。また、「自分には、よいところがあると思いますか」の肯定的回答の割合が86.9%であった。今後も生徒が自己肯定感を高く維持できているよう声掛けを行っていきたい。

○「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」の回答の割合が、1時間以上2時間未満が22.9%と最も多い。また、「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)」の回答の割合が、1時間0分以上2時間未満が28.9%と最も多い。引き続き、携帯電話やスマートフォンの適切な使い方について考える機会を設けていきたい。

○「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定的回答の割合が72.7%、また「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の肯定的回答の割合が96.8%と、どちらも全国平均を上回っている。今後も自分の将来について考え、希望を持てるような進路指導をしていきたい。

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の肯定的回答の割合は83.0%、また「友達関係に満足していますか」の肯定的回答の割合は93.3%と高く、どちらも全国平均を上回っている。これから先、周囲の人々と意見の対立があった時、良好な関係を築きながらも、誰もが納得のいく合意点を見つけるということが必要になってくるが、現状そのスキルが身に付いてきていると考えられる。

○「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の肯定的回答の割合が、88.5%で全国平均を大きく上回っている。意欲的に、そして主体的に学ぶ姿勢が育っているとみることができる。

●国語、数学、理科ともに「勉強が好き」の肯定的回答の割合が県平均及び全国平均を上回る結果となった。現在、その学習意欲が十分に成果に繋がられているかと言うと、不十分なところもあるので、授業の工夫等を行っていき、学力の向上を目指していきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」では、3時間以上と回答した生徒の割合が、県平均及び全国平均を下回っている。単純に時間だけでなく質の問題もあるが、家庭と連携しながら、家庭学習の充実を図っていく必要がある。

宇都宮市立清原中学校 (第3学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・目標に向かってあきらめずに、粘り強く学びに向かう生徒の育成 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自主学习ノート」の運用と適切な学習課題の提示による家庭学習の充実 ・AIDドリル、学校図書室の活用 ・ティームティーチングによる効果的な指導法の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の肯定的回答の割合が、県平均を上回っている。 ・「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の肯定的回答の割合が、県平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> ・問題形式において、思考・判断・表現の正答率が、2教科とも市平均をやや下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力を育成するために、書く力の充実に重点を置く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業において、自分の考えをまとめ、「記述」する活動と、言葉で人に伝える「説明や話し合い」活動を重視し、相互に関連付けたり、考えを整理したりできるようにさせる。 ・振り返りでは、書くための時間を確保するとともに、書き方の指導も行っていく。